

第16回 町長定例記者会見

- 開催日時 平成30年3月2日（金）午後2時10分～
- 開催場所 遠軽町役場2階応接室
- 記者数 2人

それでは、定例記者会見、今回の議題についてご説明申し上げます。

■石北本線の存続に向けた取り組みについて

現在、喫緊の課題となっております石北本線の存続については、JR北海道が単独では維持困難な線区として発表されて以来、オホーツク圏活性化期成会を中心に取り組みを進めて参りました。

2月19日には北海道知事の付属機関であります「北海道運輸交通審議会」が、2030年までの「北海道交通政策総合指針（仮称）（案）」を知事へ答申いたしました。

この中で石北本線は「国土を形成し、本道の骨格を構成する幹線交通ネットワークとして、負担等に係るこれまでの協議を踏まえ、維持に向けてさらなる検討を進める」とした方向性が示されたところであります。

オホーツク圏活性化期成会としても、石北本線部会に設置した、管内すべての市町村で構成する小委員会におきまして、さらに検討を進めることとしております。

本町におきましても、昨年12月に立ち上げた遠軽町石北本線利用促進協議会を中心に、1月には石北本線を利用した「親子木工作ツアー」の実施や、町内の各学校から募集し最優秀賞となった利用促進キャッチフレーズ「遠軽町の未来のために、みんなで守ろう石北本線」と、遠軽町出身の漫画家、安彦良和氏に提供いただいたカボチャ団体陳情のイラストを活用した懸垂幕やポスターの掲示、石北本線の存続を呼び掛ける広報えんがる瓦版の発行、オホーツク圏活性化期成会が行う特急列車内での特産品車内販売など、住民のマイレール意識向上を図っております。

また、1月12日に初めて行われました、JR問題に関する国・北海道・JRの3者による協議におきましては、国の来年度予算の概算要求がまとまる「夏ごろまで」に、大まかな方向性を出すと確認されたところであり、スピード感を持って取り組まなくてはならないものと考えております。

石北本線は絶対に残さなければならない、という覚悟の下、今後も存続に向けた取り組みを進めて参りますが、これには、沿線住民や石北本線の利用者など、住民の皆様のバックアップが不可欠であります。報道機関の皆様におかれましても、今後ともご協力いただきますようお願いをしております。

■合併特例債の発行期限再延長について

合併市町村のまちづくりのために創設されたこの財政措置につきましては、東日本大震災の発生を受けまして、被災市町村は10年間、それ以外の市町村は5年間の発行期限延長がなされていたところではありますが、震災復興や東京オリンピック開催による全国的な建設需要の増大に加えて、大規模な災害の発生などにより進捗状況に遅れが生じている団体があることから、被災市町村と同様の10年間に発行期限の再延長を求める動きが全国的にあり、私が会長を務めております北海道合併市町連携会議といたしましても、昨年11月に発行期限の再延長について国などに要望を行ったところであります。これに対して、再延長に向けた動きが出てきており、期待しているところであります。これは間もなく国会を通るというふうに聞いております。

私ども遠軽町は平成17年10月に3町1村で合併いたしました。その後、財政基盤を整えるとともに、住民の合意形成を図りながら事業を進める難しさ、これは合併を経験した団体でなければ分からないことでもあります。

そのような中で、平成24年7月にこの連携会議を立ち上げ、合併特例債の発行期限延長や、全国に先駆けて地方交付税が減らないようにといった要望活動を行った結果、これらの要望が認められ、遠軽町としてもごみ焼却施設や町民センター、遠軽IC道の駅の建設に着手できるようになったところであります。

私どもの会議を構成する道内22の団体はもちろん、全国の合併市町村のまちづくりが円滑に進むよう、今後も連携し、活動して参ります。

■1964東京オリンピック遠軽町展示林について

この展示林の活用につきましては、昨年9月に試験伐倒を行いました。その後の材質調査では、乾燥後の材について腐れや割れ、色、フシ、ヤニなどを確認した結果、十分に製品として活用できるものであることがわかりました。今後は、地元材を織り交ぜながら、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会での活用に向けた試作品を製作していきたいと考えております。

また、今月21日、町内の木楽館におきまして、子どもを対象とした木工体験会を開催いたします。この体験会は、試験伐倒した展示林の木材を活用いたしまして、あらかじめ板にしたものをイトノコや紙ヤスリでかたどり、木芸品を作製してもらうというものであります。こういった木育イベントを通じまして、歴史の継承も継続して行って参りたいと考えております。

さらに、この展示林の歴史を通じて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会参加国と交流を図るホストタウン登録への取り組みも進めておきまして、現在、北海道などの関係機関と協議を行っているところでございます。

前回の記者会見でもお話をさせていただきましたが、昨年11月にはオリンピック関連施設であるビレッジプラザへの木材の提供を機に、組織委員会の森喜朗会長はじめ、事務総長、副事務総長など関係者の皆様にお話をさせていただく機会がありました。今後も、この展示林を活用していただけるよう、引き続き関係機関に働きかけを行って参ります。

■バストス市との交流について

本町では、海外の2都市と姉妹都市提携をしておきまして、そのうちの1つであるブラジル国サンパウロ州バストス市とは、遠軽町出身者が多く移民し、当時のバストス市副市長と遠軽町長が親戚関係であった縁で、昭和47年に提携を結んでおります。このバストス市は養鶏業が盛んで、ブラジル国内で消費される卵の20%を生産しているそうであります。

同市からは近年、北海道が行う外国人訪問受入事業に合わせて、日系人が本町を訪れており、今年も2月に女性2人が本町を訪れ、冬のオホーツクを楽しんでいただきました。このとき訪れた2人から、バストス市長の親書を受け取りました。その内容は、本年、バストス市に入植して90周年を迎えるにあたり、恒例の卵まつりで記念式典及び祝賀会を開催するのでぜひ出席願いたい、というものであります。

本町からバストス市へは、姉妹都市提携前の昭和47年、ブラジル移民80周年の昭和63年、姉妹都市提携20周年の平成4年に訪問しており、それ以降26年間、公式に訪問していないことから、本年7月に遠軽町議会とともに訪問する予定であります。

これを機会に、バストス市との姉妹都市提携の絆を深め、今後の交流につなげて参りたいと考えております。

■老人福祉施設について

遠軽町社会福祉協議会が運営する有料老人ホームが、今月から供用開始されることになりました。

遠軽町といたしましては、特に所得が低く、在宅での日常生活と介護に大きな不安を持っている高齢者や、介護施設入所までの「はざま」にある高齢者に対して、食事の提供や日常生活のお世話など、安心して生活できる居住施設が必要であることから、この有料老人ホームの建設に対し38,803千円の補助を行ったところであります。

この施設は、約10畳の居室が10室ありまして、各部屋に洗面台、トイレ、クローゼット、暖房を設置しております。このほかに共用の食堂、厨房、洗濯室、浴室、宿直室などがあり、さらにサービス付有料老人ホームとして、ヘルパーステーションも設置された施設でございます。

次に、遠軽町高齢者保健福祉計画、及び第6期介護保険事業計画に掲げる整備目標の達成を図るため、地域密着型サービスを設置・運営する事業者の公募を行った結果、平成28年11月に応募があった、佐呂間町の株式会社エムリンクオホーツクにより整備が進められておりました、小規模多機能型居宅介護事業所につきましても今月より供用開始されることになりました。

この施設は、定員が29人で、利用者が可能な限り自立した日常生活が送れるよう、利用者の選択に応じた通所を中心に、要介護者の様態や希望に合わせたショートステイや、自宅への訪問を組み合わせ、日常生活上の支援や機能訓練を行うといった施設であります。

近年、急速に進む高齢化に対応するための施設整備など、今後とも関係機関と協議しながら進めて参ります。

■FISファーイーストカップ2018遠軽大会の開催について

昨年に引き続き2回目となる大会が今年も開催されます。競技は3月5日にアトミックカップの大回転が、6日に遠軽信用金庫杯の回転が、7日にはデサントカップの回転がそれぞれ行われます。

今大会には、海外選手53人を含む167人がエントリーしており、平昌オリンピックに日本代表として出場した湯浅直樹、石井智也、安藤麻、石川晴菜の各選手も出場を予定しております。

今回は、国設阿寒湖畔国際スキー場から装置を借り受け、滑走面の雪中深くに水を注入して凍らせるインジェクション作業を行い、より良い競技環境を整える作業を行ってまいりました。

また、1月には陸上自衛隊第25普通科連隊と、大会運営に関する協力協定を締結し、コース整備をはじめとした事前準備や、当日の競技役員に延べ300人の支援をいただいております。

さらに、この3日間はCS放送などで活躍するフリースタイルアナウンサーの吉田暁生氏とアルペンスキーヤーの木村公宣氏をお招きして場内で実況・解説を放送し、より臨場感あふれるレース展開をお届けできるものと考えております。

ぜひともスキー場に足を運んでいただき、世界で活躍するトップスキーヤーの滑りをご覧くださいと思います。

■観光イベント等について

2月3日に遠軽青年会議所の主催により「第3回えんがる屋台村 雪提灯」が開催されました。本町においては、長らく雪まつりのようなイベントが開催されておりましたが、2年前から遠軽青年会議所が主体となり、陸上自衛隊第25普通科連隊などの協力により開催されております。今回も親子連れから年配の方まで、大勢の方にお楽しみいただいたこととあります。

2月25日には、湧別町と連携して実施しております国内最長コースの湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会が開催され、1,100人を超える皆さんに、雄大なオホーツクの自然をお楽しみいただき、全国に当地域の魅力を発信できたものと考えております。

また、明日3月3日から4日にかけて「遠軽、冬のモニターツアー」を実施いたします。

このツアーには、北見市と旭川市から4組の一般参加者のほか、旅行代理店の関係者に参加していただき、町内各地の観光施設を回るほか、コスモス園におきまして、灯をともした紙製のランタンを空に打ち上げる「スカイランタン飛行イベント」や、足こぎ自転車を雪上で楽しむ「スノーキックバイク」体験など、新たな冬の観光メニューも模索して参ります。

また、石北本線に関する取り組みも兼ねまして、ツアー参加者には鉄道を利用して本町を訪れていただくことで、鉄道を利用した新たな観光資源の開発についても検証して参ります。

3月10日と11日には、丸瀬布地域におきまして「森林浴・歩くスキーと語る夕べ」を開催いたします。

このうち、10日に丸瀬布中央公民館で開催する、語る夕べ講演会には、東京大学の月尾嘉男名誉教授と、東日本大震災で発生した流木を使ったTSUNAMI ヴァイオリンの製作を手掛ける、クラシック・フォー・ジャパン代表理事の中澤宗幸氏をお招きし、講演をいただくほか、中澤氏の妻である中澤きみ子氏によるヴァイオリン演奏も行われます。ぜひ多くの皆さんにお越しいただきたいと思っております。

また、4月には太陽の丘えんがる公園虹のひろばと丸瀬布森林公園いこいの森がオープン控えております。さらに、5月には太陽の丘えんがる公園の芝ざくらを楽しむイベントを予定しておりますが、北海道の交付金を活用し、これまでとは少し違う趣向での開催を検討しているところであります。

これから、遠軽町は春、そして夏の観光シーズンを迎えます。ぜひ多くの皆様に、遠軽にお越しいただき、お楽しみいただけるよう準備をして参ります。